

福岡翔学館だより

2016.2.22 発行

行事予定

2月24日(水) レポート最終締切

3月11日(金) 卒業式

春休み

※※レポート締切のお知らせ※※

2月24日(水) 16:00が全レポートの最終締切となっておりますので、これ以降の提出になると今期の単位取得はできなくなります。ご注意ください。



卒業式のご案内

後期レポート・試験をクリアした3年生はいよいよ卒業ですね。卒業生の門出を祝うため、福岡翔学館でも卒業式を行う予定にしております。

日時：2016年3月11日(金)10:00～

場所：福岡翔学館高等学院

卒業生・卒業生の保護者の方々だけでなく在校生もぜひ参加してください^^

※卒業式の後、茶話会を予定しています。大変お手数ですがひとり一品持ち寄りをお願いできると有難いです。よろしくお願ひいたします。

↓ 昨年の卒業式の様子

↑ 榎田神社へのウォーキングの様子です。各生徒のタイミングに合わせて十日恵比寿→管崎宮→榎田神社のコースや博多→九大管崎キャンパス→管崎宮→榎田神社のコースもウォーキングしました♪寒空の中でしたが、歩きながら話をしたり時間を共有する事ができて嬉しく思っております^^

↓ 試験・レポートに取り組んでいる様子です。各自のペースでがんばっています。



レポート提出・試験が終わると春休みになりますね。寒いので家から出たくない時期でもありますが、翔学館は毎日開いていますので、ちょっとオシャレしにでも、顔を出してもらえたら嬉しいです!! もちろん来年の受験や進路などについての相談も大歓迎です♪



☆アンケートにご協力お願いします☆

今年1月号より3回に渡りコラム「不登校に思う」を掲載してきましたが、内容をより皆さまの希望に沿うかたちにしたくアンケートを添付しております。年度末でお忙しい中大変お手数ですが、ご回答の上、返送または、写真でメールして頂ければ幸いです。よろしくお願ひいたします。 メール：kawahara@fs-h.jp

不登校に思う（その 3）

不登校に思う(その 1)(その 2)で子ども達の声をお届けしましたが、(その 3)では、一応まとめてみたいと思います。

不登校の子どもを持つ親とかかわって、その苦しい胸の内を聞くにつけ、何かの手助けはできないかという思いが強くなります。そして、多くの親に次のような共通的な悩みがあることがわかってきました。

- ① うちの子がどうして、このような状態になったのだろうか
- ② 私の子育てのどこが間違っていたのだろうか
- ③ どうすれば不登校の状態が解決されるのだろうか

このような言葉は、不登校、ひきこもり、昼夜逆転、無気力などの行動をとる子どもの多くから「悲痛な言葉」として聞き取れます。

そして、これらの言葉は親として当然だと思います。しかし、このことを何回言っても解決しないのも事実です。それは、親の価値観で判断しているだけであって、単なる親の嘆きです。子どもの目線に立っているとは言えないのではないかという思いが強くなりました。

このような思いを親が持つ限り、子どもは「自分はだめな子どもであり、親は全く理解してくれない」と思うようになります。ここで、思い切って子どもを本気で受け止めることです。時間がかかります。ここで親が受け止めることによって、事態は必ず好転します。子どもは本能的に自分が受け入れられたと感じたら安心します。この安心が子どもを自ら立ち直らせるのです。ここで親の口から「これから一緒にやり直そう、私達(親)も心を入れかえて出直すから」と本気で言い、実践することによって子どもの気持ちはずいぶん変わります。

では、子どもの本心はどこにあるのか、不登校の子ども達と接していると、次のような事に集約されます。

不登校の子どもは、

- ① ほんとうは、ものすごくさみしがっている
- ② ほんとうは、親に認められたがっている
- ③ ほんとうは、だれかに(基本的には親)に自分の本心を聴いてもらいたがっている
- ④ ほんとうは、くつろげる家庭をもとめている

このような思いを持っているわが子の本音に気づき寄り添うことによって、親子の関係が激的に変わっていくことを私はたくさん体験しました。

親も子どもと同じように(あるいはそれ以上かもしれません)人知れず心が満たされない思いをもって生活しておられることがわかります。親が思えば思う程に子どもは逆方向に向いて、反抗を繰り返すでしょう。そのことが耐えられなくなり、ついに感情的になって親子の関係が悪化する。この繰り返して、毎日を過ごされている親が何と多いことか。相談に応じながら、心を痛めます。どうにかして苦しんでいる親と子供の本音をつなげていくことができないかと私も心を痛めています。そして、この本音がつながらなければ前進はないのです。わが子を信じましょう。

翔学館の川原先生方と力を合わせて、急がず、じっくりと取り組みましょう。私も力いっぱい応援します。

牛島 達郎

